秋田県作業療法士会ニュース

きりたんぽ

Vol.42-No.1

□巻頭言

「二期目を迎えて」

・・・秋田県作業療法士会 会長　　川野辺　穣

□学会長より

「学会運営記」

・・・介護老人保健施設「しょうわ」　　柳橋　正彦

□印象記

「第31回秋田県作業療法学会に参加して」

・・・大曲厚生医療センター　　照井　結女

□写真集

「学会はこんな様子でした」

□トピックス

元気があれば何でもできる！

「新しい時代に求められる作業療法士のカタチ」

・・・障がい者支援施設ほくと　　若狭　利伸

□みんなで語るべ～日々の楽しみ方～

【語り手】介護老人保健施設　いこいの里

巻頭言

「二期目を迎えて」

秋田県作業療法士会　会長　　川野辺　穣

4月26日に第31回秋田県作業療法学会が盛会のうちに終了いたしました。久しぶりの対面のみの学会でしたので、参加者がどこまで集まるか少し不安でしたが、当日お聞きしたところ130名に近い会員の方に参集いただき、とても印象深い学会となりました。

今回3回目の由利組合総合病院をお借りしての学会、救急入り口から入り、長い廊下を抜けて講堂までたどり着く道のりは記憶に残るものでした。昨今会員数も増えて会員所属施設での学会は難しく、ましてや感染症の問題が残る中、施設利用にご理解いただいた由利組合総合病院病院長、関係者の方々に心から感謝申し上げます。印象深かったのは開催場所だけではなく、学会長が私の養成校同期であったこと、学会でのランチョンセミナーやポスター発表など意欲的で新しい取り組みがあったこと、学会三役を中心に実行委員がとてもまとまりがよく、若手ベテラン関係なく働かれていたことなど、本当に沢山ありました。また学会会場では近況を語り合う会員がいたり、実習指導者に挨拶をする新入会員の皆様の姿があったりと懐かしく感じました。

今回の学会のテーマ「往古来今」～これからの作業療法を考える～、これからの私たちの作業療法士としての歩みを考えるいい機会になったのではないでしょうか。髙橋敏弘先生の講演、佐藤先生、神馬先生、渡部先生のシンポジウム、皆さん思わずうなずいたり、時には笑ったりと、言葉はそぐわないかもしれませんがとてもアットホームに感じました。皆さんは日々の仕事や生活に忙殺される中、県士会活動は何か縁遠いものを感じる時があるかもしれませんが、「作業療法って伝えにくい」など、日々感じる悩みや憤りは皆さん同じではないかと思います。作業療法が好きで誇りを持っていることは、参加される会員の中に強く感じました。

そこで協会から昨年度リリースされた基本理念を紐解いてみると、「Vision（基本理念）：作業で暮らしに彩りを」「Value（作業療法士協会の信念）：作業はすべての人にとって大切な生活行為や心身の活動であり、作業療法は作業を通じて健康と幸福に寄与するという確信があります」「Mission（協会の使命）：私たちは作業療法士の職能団体として、常に質の高い知識と技術を保ち続けます。常に最善の作業療法を探求し創造し続けます。常に一人一人に寄り添い、必要な人に、必要な時と場所で作業療法を提供し続けます」で構成されています。基本理念とは企業でいえば顔みたいなもので、どういう企業かが一言で想像できるものです。例えば永谷園は「味ひとすじ」、ホテルオークラは「親切と和」だそうです。

Visionに掲げた「作業で暮らしに彩りを」は、人がその人らしく生きるために作業（Occupation）が大切なものであるというメッセージが込められています。加えてこの基本理念は、作業療法の対象者のみではなく、私たち会員や職員のためにもあるということです。支援する側の私たちの仕事や暮らしが、自分らしく、豊かさとたおやかさのある生活や人生であることが大事なのです。協会はもちろん県士会もそれを応援し、一緒に歩んでいくものと信じています。

さてこの度役員選挙により、会長職を再任いただき2年間務めさせていただきます。会長職を髙橋敏弘先生から引継ぎ2年間務めましたが、理事の先生方に支えられ、県士会活動を少しでも前に進めるようにと必死であったのを思い出します。協会も同じタイミングで会長が山本伸一先生に変わり、組織体制や事業の進め方も大きく変わりましたので、その対応に追われることが多かったと思います。あとは災害対策、地域支援事業の2つの大きな事業は遅れることのできない喫緊の課題でしたので、理事や役員の皆様の協力のもと対応ができていたかと思います。また2年間の時間を頂きましたので、大きな責任と共にこれからの県士会をどう進めていくかについてが、今の大きな関心ごとです。これは今年度の活動方針に関わるところであり、詳しくは総会議案書をご覧いただければと思いますが、ここでは2点だけ述べさせていただきます。

まず1つ目は新生涯学修制度への対応と研修活動の再構築です。

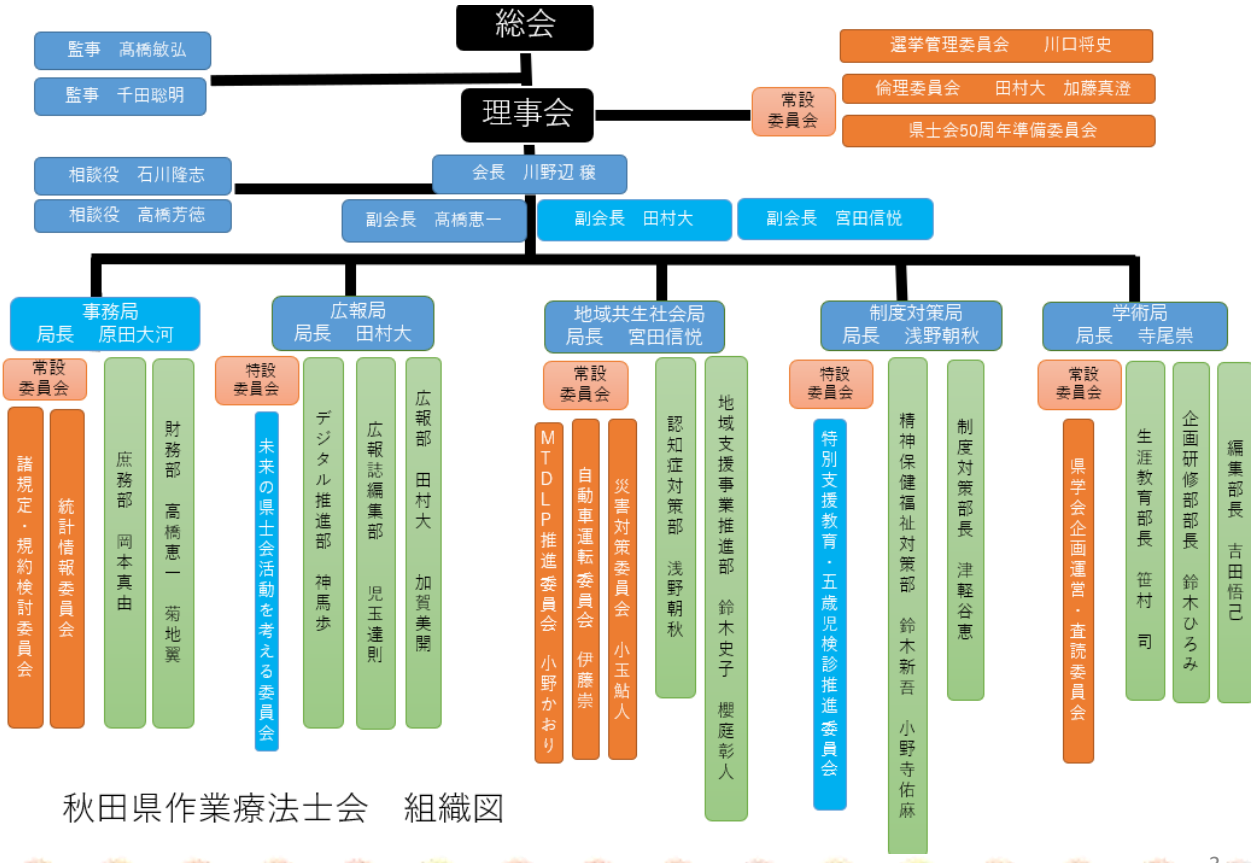
皆さんご存じのように4月から新たな生涯学修制度が始まります。またこれまでの資格制度も変わり、認定作業療法士の読み替え、新たに始まる登録作業療法士の申請は2027年4月から始まります。詳しくは協会誌4月号に記載していますので是非ご覧ください。そもそも新たな生涯学修制度については、昨年の東北学会の教育講演で竹中協会教育部長からもお話しいただいたように、これからの地域共生社会、ひいては日本の保健・医療の分野において、私達作業療法士が活躍するための新たなる教育制度が必要であるということからでした。そのため医師や看護師、理学療法士等の教育制度を参考にしつつ、一部名称を合わせる形で構造図が形成されています。将来的にはインセンティブも考慮した体制強化となるようです。協会の動きに合わせ、会員の皆様が学びを止めないように、県士会が行う研修会全般をしっかり見直していくつもりです。多様な臨床実践場面において、より良い作業療法を提供する力を獲得するための研鑽を支援し、ひいては各々のキャリア形成にも

資するために県士会は取り組んでいきます。

2つ目は、県士会の組織体制の強化、県士会活動の見える化の推進、参加しやすい体制の構築です。具体的には、副会長をこれまでの2人から3人体制に変更します。私が会長に選出させていただいてから、県や協会の会議への出席や渉外活動に加え、災害対策（秋田JRAT副代表）、地域支援（リハビリテーション専門職協議会会長）、秋田県精神保健福祉協会理事など想像していた以上に職務が多岐に渡ることが分かりました。今回副会長を3人制にするのも、こうした大事な県士会活動の案件を共有しつつ適材適所で分担することが、より質の高い活動につながると考えたからです。是非ご賛同いただければと存じます。理事会も体制も改め、三役・局長会議を主要な会議と位置づけ（年5回程度）、理事や委員会委員長で集まる全体理事会は年3回程度とします。理事の負担軽減に加え、局長以下の体制を強化していただき、理事の力を結集し、きめ細やかな活動につなげるのが目的です。まずは1年間試行させていただき、結果は皆様に来年の総会にてご報告します。また部局によっては仕事量が多くなっている部局もあります。理事に縛られず優秀でやる気のある人材を副部長として迎え、より役割を明確にしながら県士会の体制強化を進めていきます。

もう一つ大事な事業として「これからの県士会を考える会」を発足させます。すでに委員長には理事である秋田大学医学部附属病院の加賀美先生にお願いしました。人選を進めていただいていますが、今の県士会に足りないものは？変えなくてはいけないものは？強みとして推進すべき事業は？など県士会活動全体を議題に討議していただこうと考えています。会員の声をしっかり吸い上げながら、みんなで秋田県作業療法士会を作っていきたいと思うからです。またそれを推進するためには、SNSやニュースレターなどの情報発信の強化が必須となります。「きりたんぽ」も電子化にむけて準備を進め、印刷に縛られない紙面構成が可能になることも含め検討いただきます。メーリングリストを最大限活用し、タイムリーに情報をやり取りしながら双方向性の情報共有を実現していければと切に願っております。

昨年度40周年を迎えた秋田県作業療法士会ですが、節目の50年に向けたこの10年の取り組みはとても大事だと思います。微力ながら頑張ってまいります。どうぞご支援の程よろしくお願いいたします。



秋田県作業療法士会　組織図

学会長より

「学会運営記」

介護老人保健施設「しょうわ」　柳橋　正彦

令和6年5月連休明け、1本の電話連絡が届いた。県学会学会長打診の電話連絡だった。仕事場の状況もあったのだが、私自身、目立った実績も無いことも過ぎり、大役を受けるには少々荷が重すぎると感じ、お断りの連絡をしようと思った。しかしながら学生時代の同期の活躍に背中を押され、「承諾」という連絡をしてしまった。

まずは県士会学術局長に依頼し、県学会に関する資料を送付してもらい、資料を確認しながらデータの整理から始めた。資料確認の作業を進めているうちに徐々にプレッシャーが強くなり、不安感で一杯になった時期もあったが、過去10年くらいの学会誌を繰り返して見ているうちに、なんとなく頭の中に自分の思い描く学会像が出現してきて、根拠は全く無いのだが「何とかなるだろう」という思いが出て来た。承諾したからには印象に残る学会にしてやろうと徐々に野望が芽生え始めた。

私はアルコールが好きである。しかも少人数で集まって飲むのが好きなタイプだ。学会三役が決まった時に、すぐ三役で飲もうと決めていた。ただ、由緒ある学会であり、最初は羊の皮を被り、学術局長にZOOMでの会議場面を設定してもらい、第1回目の三役会議を行った。私もそうだったが、羊の皮を被った者同士の会議の場となり、表面的に話は進んだが、しっくりこなかった感覚があった。狼になるつもりは無かったが羊の皮は脱ぎ捨てた方が良いと思い、思い切って飲食ありの2回目の三役会議開催の声をかけた。みんな快く？付き合ってくれた。画面越しとは違い、顔を合わせると学会に対する思いや意見が湯水の如く湧いてきて、学会のテーマやコンセプトがある程度この場で固まった。

5年ぶりの対面形式を選択した時、読めなかったのが演題募集数と参加人数だった。近頃の県士会の研修会事情や、地方開催(中央地区と言えど県の南西部に位置する場所)、久しぶりの対面形式となると、参加者数100名、演題数10が関の山かと思っていた。ポスター発表やランチョンセミナー、演題表彰など今までには無い取り組みを入れたのも、参加者数や演題数をより増やしたい一心だった。顧問の先生方や県士会三役のアドバイスを頂きながら、シンポジストの選出、演題発表者への働きかけを募集前から三役を中心に行った。

また、物価高のあおりを受け、何かと経費が嵩むご時世なので、より安価で質の良い物を提供するにはと検討を重ねた結果、由利組合総合病院様にご協力をいただき、会場費、印刷費を

学会テーマ：往古来今
由利本荘市「ごてんまり」

極力抑えることが出来、またお弁当の出るランチョンセミナーの開催、印刷物や学会誌の各自ダウンロードの協力等に至り、経費を抑えた。

自分自身の最大限のコネクションを使わせてもらい、様々な意見を取り入れ、現状ではこれ以上は無理だろうと思うぐらい詰め込み過ぎたプログラム内容となった。今思うとかなり背伸びをしてしまったと反省している。

一般演題15題(口述9題、ポスター６題)、参加者数が約130人と地方開催とすればまずまずの結果となり、作業療法を時間と空間の流れから考える、テーマ通りの学会が表現できたと思う。

この度の県学会に参加してくれた皆さん、また運営に携わってくれた学会三役をはじめ、実行委員の皆さんに心からの謝辞を申し上げ、学会運営記を閉じます。本当にありがとうございました。

学会長挨拶より

印象記

第31回秋田県作業療法学会に参加して

大曲厚生医療センター　　照井　結女

　この度、第31回秋田県作業療法学会に参加させていただきました。私自身、対面形式での学会参加は初めての経験でした。特別講演やシンポジウム、様々な分野の方の発表を聞いて、テーマにある「往古来今」～これからの作業療法を考える～にもあるように作業療法や医療における歴史を学ぶことができ、これからの働き方について考えるきっかけとなりました。また、現代における作業療法の課題と求められることを考えてみた際に、個人としてその問題に対してどう向き合わなければならないかという点が大切だと感じました。

　私は身体障害の分野で働いています。同じ分野の方の発表はもちろんですが、普段はあまり接することのない精神分野の研究や発表も聞くことができ、違った分野でも臨床に生かすことができそうだなと感じることも多くありました。シンポジウムでは3人のシンポジストの方のお話を聞いて様々な働き方があることを知り、私自身がどのように作業療法を行っていきたいか考えていく必要があるなと思いました。私は今年から作業療法士2年目となりましたが、今は目の前の患者様のことに必死で自身のこれからのことについて考える余裕があまりありません。しかし、このままでは何も考えることもできずにただ働き続けることになってしまうと思いました。そのようにならないためにも、様々な学会などに参加し知識や技術を増やしたり、様々な資格を取得したりなど自ら行動していく必要があると思います。その結果、今後の働き方を考えるうえでの選択肢が増え、作業療法士として自信をもってレベルアップしていくことができると考えています。

　今回の学会を通して、得られた知識が自分の治療の一助にもなりました。また、今後のリハビリの仕事をしていくうえで、患者様にとって何が必要か、現代の医療現場での自分のあり方について考えることができました。今後、機会があればこのような学会や研修会に積極的に参加していきたいと思います。

写真集
学会はこんな様子でした

久々の対面形式♪

特別講演：前会長 高橋敏弘先生

会長の熱意あるあいさつ

一般演題

株式会社日本トリムさん

こちらも臨床の努力がにじみ出ていました

ランチョンセミナー：初の試み

森永乳業クリニコ株式会社さん

総会：新しい理事の方々

ランチョンセミナーのおいしい弁当

ポスター演題

こちらも初めて

新入会員の皆さん

シンポジウム考えさせられました

受賞おめでとうございます

学会長：締めのあいさつ

実行委員もお疲れさまでした

次期学会長

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
加藤　淳一さん

トピックス

元気があれば何でもできる！

新しい時代に求められる作業療法士のカタチ

社会福祉法人北杜　障がい者支援施設ほくと　若狭　利伸

こんにちは。障がい者支援施設ほくとの若狭利伸です。

まず…4月から新たなスタートを切った皆さん、本当におめでとうございます。地元・秋田にOTが増えたこととても嬉しく思います。

私は現在OTとして障害者施設に勤務しながら、小さな会社を経営しています。この二つの立場を行き来する中で、OTの可能性は医療や介護の現場だけにとどまらないと実感するようになりました。一般的に、OTといえば病院や施設でのリハビリ業務を思い浮かべる方が多いかもしれません。もちろん、その現場で積み重ねる経験はかけがえのないものですし、OTの原点ともいえます。ですが、私たちの持つ視点やスキルは、地域活動や異業種との連携といったフィールドでも十分に活かすことができると思います。

これからの時代、一つの働き方に縛られないことが自分自身を守る力にもなると考えます。そして何より、OTという職種が社会に対して持つ可能性を、実践を通してアピールしていくことにもなります。もちろん、こうした多様な働き方を誰にでも勧めるつもりはありません。無理に道を広げる必要はないと思っています。ですが、多様な経験や視点を持つことは、いずれ目の前の対象者のために使える“武器”にもなり得ます。日常の支援において、一つでも多くの選択肢やアイディアを持っていることは、確実に力になっていくはずです。

OTの根本にあるのは、「その人らしく生活する」ことを支援するという使命です。そのためには、状況を多角的に捉える視点や、柔軟な発想、そして「無理かもしれない」と思うことにも挑戦してみる実行力が必要です。よく「スペシャリストであるべきか、ゼネラリストであるべきか」という議論もありますが、私はどちらか一方ではなく、両方を兼ね備えることがこれから求められると考えています。まず、専門性を高めることによって、深い知識や高い技術をもって対象者に確かな支援を提供することができます。一方で、広い視野を持つことは、対象者の背景にある社会的課題や環境要因、さらには予測できない変化に柔軟に対応する力を育ててくれます。

たとえば、医療制度の改正や社会情勢の変動、テクノロジーの進歩といった外部環境は、私たちの支援内容にも少なからず影響を与えます。そんな時に、自分の専門分野に閉じこもってしまうのではなく、多角的な視点で状況を捉え、柔軟にアプローチを変えられるOTがこれからはより必要とされるでしょう。“スペシャリスト

としての確かな軸を持ちつつ、ゼネラリストとして周囲と連携しながら新たな価値を生み出していく”この二つを両立できるOTこそが、不確実で複雑な時代を生き抜く力を持つと私は信じています。

では、どうすればそうした力を身につけられるのでしょうか。答えはシンプルで、まずは小さな一歩を踏み出してみることではないでしょうか。

地域の活動に参加してみたり、異業種の人たちと交流してみたり、興味を持ったことに挑戦してみる。たとえ不安があっても、その経験が自分自身の引き出しを増やし、支援の幅を広げる武器になっていきます。

さらに、日々の業務の中で得た気づきを言葉にして振り返る習慣を持つことも、成長を加速させてくれます。加えて、学び続ける姿勢を大切にしながら、専門性と柔軟性のバランスを意識して磨いていくことが必要です。

OTは、これからますます社会に求められる存在です。 AIが発展していく中でも、人の「暮らし」に寄り添う仕事はなくならないと言われています。今後、皆さん一人ひとりが、持っている可能性を信じ、それを広げていくこと。それが、新しい時代のOT像をつくる一歩になるはずです。私自身も、これからも挑戦者であり続けたいと思っています。無理なく、自分にできることからコツコツと進めていきましょう。

みんなで語るべ
～日々の楽しみ方～

語り手：介護老人保健施設　いこいの里

【仕事の合間に・・・】

職場での昼休み、読書をしています。短い時間で読み終わるように短編集やタイトルに３分・５分で読めるといった文言があると惹かれて読んでいます。あっと驚くどんでん返し、感動などでほっこり終わるものもあれば嫌な終わり方で鳥肌が立つものなど様々。ドライアイと闘いながら日々没入して楽しんでいます。

【ラプンツェルのドレス】

娘に頼まれて、ハロウィン用にラプンツェルのドレスを作成しました。といっても紫の袖なしのワンピースを改良したもの。はじめはオーガンジーの巾着をほごして、手縫いでギャザーを寄せながらふんわりした袖にしました。長過ぎるドレスの丈は膝丈まで調整。花やリボンをあしらって、ラプンツェルの世界観を表現しました。

【参拝の記録】

お天気の良い日に少し足をのばし、神社やお寺に参拝へ。参拝の記録として御朱印をいただいてきています。木々の並んだ参道を、辺りをみながらゆっくり歩いていると、パソコン作業で疲れた老眼もなんだかすこし良く見えるようになった気分に。日々の忙しさを忘れてのんびりとした時間を過ごしています。

県士会
登録フォーム

メーリングリスト
登録フォーム

｜県士会への入会をお願いします｜

皆様一人一人の協力が大きな結束力となり、県士会の活動に大きな意味を果たします。メーリングリストに登録いただくと研修会情報や連絡事項など情報を共有できます。是非、会員登録をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

～編集後記～

新年度も始まり、新人も仲間入りを果たし各職場、もちろん県士会にも新たな風が吹いてきたと思います。私の職場でも対面の事業も増えつつあり、今回、広報誌を編集していて自分も学会に参加した身として改めて実際に関わる良さ・大切さを感じました。研修会も新たな試みで開催されるものもあり、参加したことのないものはなかなか入りにくいものもありますが、多方面に参加しお互い切磋琢磨していきましょう。

●ご覧ください

秋田県作業療法士会ホームページ
URL：https://akita-ot.jpn.org/membersite/service.html

秋田県リハビリテーション専門職協議会ホームページ
URL：https://www.pos-akita.org/

県士会

リハ専門職

(一社)日本義肢協会登録
東北 101 号

株式会社
千秋義肢製作所
SENSYU

義手・義足・装具・車椅子
リハビリ用品

秋田市新屋豊町 1-22
TEL　018-823-3380
FAX　018-862-5126
http://www.sensyugishi.co.jp

役員改選のお知らせ

謹啓

　平素より、当士会の運営・活動に多大なるご理解とご協力を賜り、深謝申し上げます。
令和7年4月26日に開催されました定期総会におきまして、役員改選が下記のとおり承認となりましたのでお知らせいたします。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

会　長 ：	川野辺　穣	(秋田県立循環器・脳脊髄センター)
副会長 ：	髙橋　恵一	(秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻)
	田村　大	(独立行政法人　労働者健康安全機構　秋田労災病院)
	宮田　信悦	(社会医療法人明和会　大曲中通病院)
事務局長：	原田　大河	(社会医療法人明和会　中通リハビリテーション病院)
理　事 ：	浅野　朝秋	(秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻)
	岡本　真由	(社会医療法人明和会　中通リハビリテーション病院)
	小野寺　佑麻	(秋田大学医学部附属病院)
	加賀美　開	(秋田大学医学部附属病院)
	菊地　翼	(秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻)
	児玉　達則	(医療法人楽山会　大湯リハビリ温泉病院)
	櫻庭　彰人	(自宅会員)
	笹村　司	(JA秋田厚生連　平鹿総合病院)
	神馬　歩	(自宅会員)
	鈴木　新吾	(介護老人保健施設　やすらぎの苑)
	鈴木　ひろみ	(介護老人保健施設　翠香苑)
	鈴木　史子	(雄物川クリニック)
	津軽谷　恵	(秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻)
	寺尾　崇	(JA秋田厚生連　平鹿総合病院)
	吉田　悟己	(秋田県立リハビリテーション・精神医療センター)
監　事 ：	髙橋　敏弘	(特別養護老人ホーム　真森苑)
	千田　聡明	(秋田大学医学部附属病院)
相談役 ：	石川　隆志	(なかみちケアセンター)
	髙橋　芳徳	(医療法人楽山会　大湯リハビリ温泉病院)

一般社団法人

秋田県作業療法士会

発　行：一般社団法人　秋田県作業療法士会
会　長：川野辺　穣
編　集：一般社団法人　秋田県作業療法士会　広報誌編集部
〒018-5421　秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱16-2
大湯リハビリ温泉病院　作業療法室・児玉 達則
TEL 0186-37-3511　　FAX 0186-37-3483
e-mail：akita_ot_kouhou@akita-ot.sakura.ne.jp
事務局：〒010-0041　秋田県秋田市広面字屋敷田25-2 セジュールエスト 105号
TEL/FAX 018-837-0552
e-mail：akita_ot@akita-ot.jpn.org
印　刷：川嶋印刷株式会社